



Green Echo The 61st Concert

グリーン・エコー第61回演奏会

歌い継がれてきた名曲と
歌い継がれていく新しい歌

古くから親しまれ、歌い継がれてきた唱歌・童謡・民謡には、万人の心に寄り添う深い共感があります。この演奏会ではそうした曲を集めてみました。「歌は世につれ世は歌につれ」といいますが、本当にいい曲というのは、特定の時代の中で生まれながら世代を超えていつまでも歌い継がれていくものではないでしょうか。たとえば、ベートーヴェンの『第九交響曲』のように。

一方、音楽体験には世代で共有するものがあり、そうした歌には特別な記憶を呼び覚まし、追体験させる効果があります。忘れてしまったこと、忘れられないこと、忘れてはならないこと…それらの体験を継承することができるのも音楽の力と言えるかもしれません。

懐かしい曲の中には、時代の流れに抗えず、消え入りそうになっているものもあります。子供の頃によく歌った『たき火』という童謡は、防災上・廃棄物処理上問題があるとして教科書に掲載するにあたって何度もクレームがついたそうです。笑うに笑えない話です。文部省唱歌の『村祭』はすでに教科書から姿を消しているそうです。町村合併で村が市や町に変わり、伝統的な祭りも後継者不足で姿を消していく昨今ですが、祭りに興じる人々の晴れやかな心情は昔も今も変わらないものだと考える余地はなかったのでしょうか。

忘れ去られていく名曲がある一方、東日本大震災直後に、福島の詩人和合亮一さんの詩に新実徳英さんが曲をついた『つぶてソング』の中のある曲は、最近、高等学校の教科書で取り上げられたそうです。時の歌ではありますが、普遍的な感情を共有できることが評価されたのでしょう。こうして、新しく生まれた曲が、これから先、世代を超えて歌い継がれていく可能性もあるわけです。

先の震災は、日本人の心に深い傷跡を残しました。しかし、人々はその極限の体験から強い絆を育んできました。『つぶてソング』は8年以上経った今も東北の方々の心情に寄り添い、日本中で歌い継がれています。非力だと思われた音楽にも大切な役割があったのです。時間とともに薄れていく人間の記憶を音楽の力は蘇らせることができます。忘れてはならない記憶を歌という形で共有し、未来につないでいくことも音楽の果たす役割の一つです。災害や戦争、平和を扱った歌は数限りなくあります。その多くは忘れてはならない記憶を伝えるために歌い続けられます。また、ある時はそうした歌を歌うことで改めて人間として大切なものを教えられ、励まされることもあります。そして今も、未来に歌い継いでいくべき音楽が次々と生まれています。今回の演奏会では、委嘱創作曲を含めてそうした新しい歌も選びました。

青春時代に歌った曲が、子供達の教科書に載っていたりするとなんだか嬉しくなります。成長の道標として心に刻まれた歌の中には、世代を超えて共感できる歌、これからも歌い続けていく価値のある名作がたくさんあります。ジャンルを問わず多くの人の心をとらえることのできる優れた作品の数々。是非、最後の一曲までじっくりとお聴きください。



Piano
渡部 真理
WATANABE, Mari

◆静岡雙葉高等学校、愛知県立芸術大学音楽学部器楽(ピアノ)専攻卒業、同大学院修士課程修了◆横山千代子、桜井秀、久保みち、小津恒子、三宅洋一郎、ディーナ・ヨツフェの諸氏に師事、伴奏法・合奏法を三浦洋一氏に師事◆第10回静岡県音楽コンクールピアノ部門第1位◆リサイタル開催、ピアノ協奏曲を国内外のオーケストラと共に他、独唱や各種室内楽の共演者として幅広く活動、数多くの合唱団のピアニストとして演奏会やコンクールに出演◆2001年よりグリーン・エコーのピアニストを務め、オーケストラ内の鍵盤楽器奏者としても多くの演奏会に出演している◆現在、桜花学園大学、金城学院大学非常勤講師、名古屋音楽学校講師



Piano
掛川 遼平
KAKEGAWA, Ryouhei

◆三重県津市出身◆県立津高等学校卒業。音楽部に所属◆みえ音楽コンクールピアノ部門高校生の部第1位◆愛知県立芸術大学および同大学院ピアノ専攻にて学ぶ◆ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団、津コミュニティバンドなどと共に演奏◆在学中より弦楽器、声楽、合唱などのアンサンブルピアニストとしても支持を集め、特に歌曲、室内楽の分野では多くのソリストの信頼を得ている。また通奏低音奏者、合唱指導者としても活動するなど愛知県を中心に幅広く音楽活動を行っている◆現在、豊田市少年少女合唱団、グリーン・エコー、名古屋ピクトリア合唱団、NHK名古屋文化センターなどでピアニストをつとめている◆これまでにピアノを下村美夕貴、兼重直文、加藤美緒子、ヴァディム・サハロフの各氏に師事



Conductor
荻野 砂和子
OGINO, Sawako

◆明和高校音楽科、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業◆グリーン・エコー第33回演奏会B.ブリテン「戦争レクイエム」で演奏活動を始める◆「第九」を始めとする合唱曲のソロ、オペラ、オペレッタなどの舞台作品に数多く主演◆1987年より32回のソロリサイタルを開催。第8回、第18回リサイタルに於いて名古屋市民芸術祭審査員特別賞受賞、第24回リサイタルに於いて名古屋音楽ベンクラブ賞受賞、1976年グリーン・エコー入団、25年以上団内指揮者として活動◆江南混声合唱団、みどりの会、コール・タンポポ、鷹来女声コーラスエッセを指導◆明和高校音楽科、名古屋音楽大学非常勤講師



Conductor
河辺 泰宏
KAWABE, Yasuhiro

◆岐阜市出身◆名古屋大学工学部建築学科卒業。在学中に名古屋大学混声合唱団を指揮◆1980年からグリーン・エコーにて指揮を始める◆1983~84年、イタリア政府給費留学生としてローマ大学、国際ロータリー財団奨学生としてフィレンツェ大学に留学◆2001年から名古屋フィルハーモニー「第九」演奏会において愛知県合唱連盟の合唱指揮を担当し現在に至る◆グリーン・エコーはじめ丸紅名古屋合唱団、合唱団ミール、合唱団T&C、名古屋市主催「市民の第九」ほか名フィルの演奏会などで合唱指導を担当◆愛知県合唱連盟理事長、愛知合唱協会理事、「市民の第九」実行委員、愛知淑徳大学創造表現学部長